

2021 丹波縄文の森塾（6日目）

日増しに秋が深まる中、10月16日に丹波縄文の森塾6日目を開催しました。

この日最初のプログラムは稲刈りです。今では機械（コンバイン）で簡単に稲を刈り取り、脱穀までしてしまいますが、森塾ではノコギリ鎌を使い、昔ながらの方法で一株ずつ刈り取ります。まず、藤本アドバイザーから稲株のつかみ方や鎌の使い方の指導を受け、それから田んぼに入ります。慣れた手つき“ザクッ ザクッ”とリズム良く刈り取る塾生もあれば、1株ずつ慎重な手つきで刈る塾生など様々ですが、全員が昔ながらの稲刈りを体験しました。そして刈り取った稲をワラで束ね、リヤカーに乗せて栗園の中の稲木まで運びました。稲木は稲束を掛けて天日で乾燥させるための木組みです。塾生が交代しながら2人一組になり、1人が稲木に登ります。そして下から稲束を投げ上げ、それを上で受け止めて稲木に掛けていきます。この後11月の塾で脱穀し、粳すり、精米して12月にはその餅米で餅つきをします。つきたてのお餅は格別の味です。

続いて、芋掘りを体験しました。6月に1人一株ずつ名前を付けて植えたサツマイモを掘り出しました。今年は、9月の雨不足などの影響もあり全体的に小さなイモが多かったのですが、それでも土の中からイモが出てくると“あったー！”と歓声があがりました。

お昼ごはんは、黒豆の枝豆ごはんとクリームシチューです。枝豆ごはんの豆は、塾が始まる前、塾生とサポーターが枝から鞘を外して皮をむいたものです。“皮むき出来るで！”と、むき方をみんなに見せてくれる塾生もあり、これも楽しい体験でした。

午後のプログラムは、自然物を使ったクラフトづくりです。まず杉本サポーターの指導の下に、クリスマスに向けたリース作りに取り組みました。ツルで出来た輪に加工した花、果物、木の実などを飾ります。それぞれ好みの材料を選び、針金やボンドを使ってツルに取り付けます。色とりどりの飾りが一杯の豪華なリース、シンプルながらも可愛いリースなど、個性溢れる作品が出来上がりました。また、なかには輪の中の部分に木の実だけを吊り下げて、“アンパンマンの顔のリースや！”と自慢げに話す塾生もありました。

続いて、松ぼっくりを使ったクリスマスツリー作りにも挑戦しました。銀色に色付けた大きな松ぼっくりをツリーに見立て、そこにビーズなど色々な飾りを貼り付けて華やかなクリスマスツリーを作りました。この日、リースとツリーを作りながら、一足早いクリスマス気分を味わいました。



黒豆の皮むき



稲刈り



稲木掛け



イモ掘り



昼食(枝豆ご飯とシチュー)



昼休み



クリスマスリース作り



クリスマスツリー作り